

2. 現状と課題

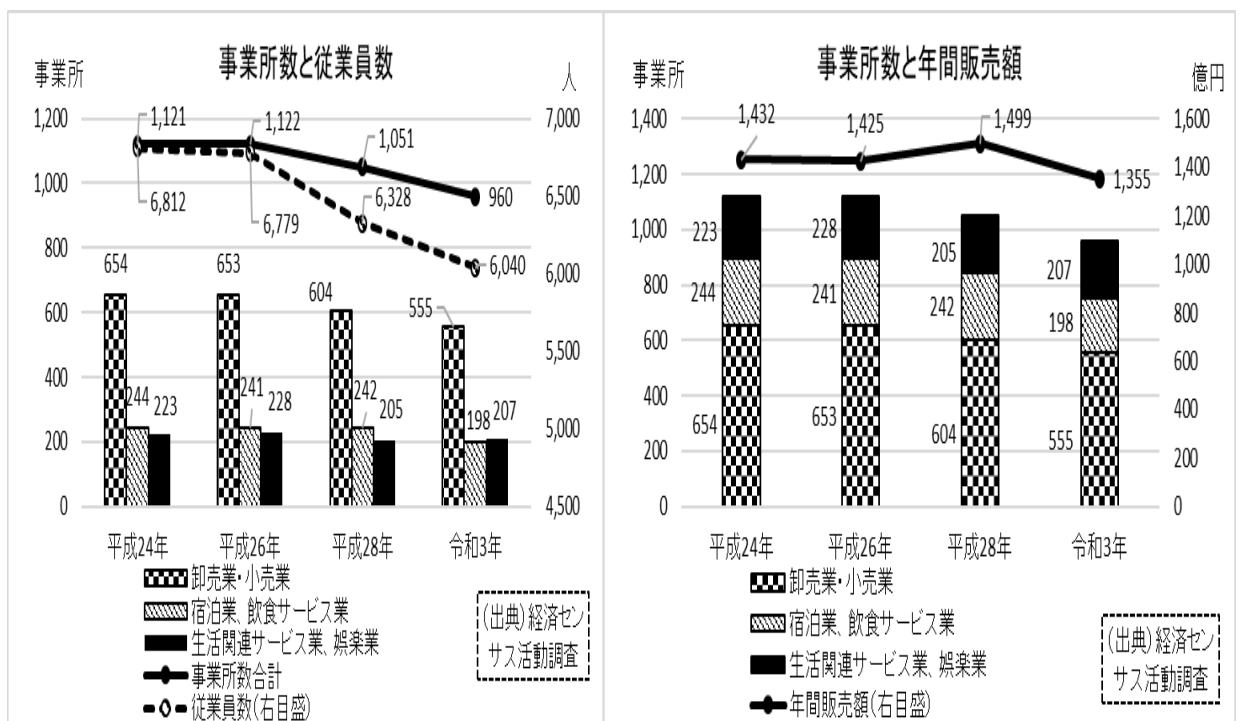
① 岡谷市の商業の現状

- 市内には10の商業会組織が結成されています。なお、地理的に商業会がない地域の商店が加盟する広域商業会が設立されています。
- 令和3年の主な業種の事業所数（卸売業、小売業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業）は960店であり、従業員数は6,040人となっていますが、事業所数・従業員数は年々減少傾向にあります。

【市内商業会 分布図】



【市内における主な業種の推移】



②岡谷市の商業振興における課題及び意見（概要）

①商業環境調査、②商業活性化会議作業部会、③商業活性化会議における課題や意見を、本計画において次頁のとおり整理・集約しました。

(1)商業環境調査

- ✓ 若年層や子どもを中心に人口が減少している。
- ✓ 大型商業施設には、市外から多くの来店者があるので、市内の回遊性を高める必要がある。
- ✓ 経営者の若返りに規模拡大が進み、事業意欲が高まっていることから、さらなる個店の魅力向上に向けた支援が必要。
- ✓ 他業種との連携を進める必要がある。
- ✓ 経費増大や人手不足への関心が高まっている。
- ✓ 個店の認知度や魅力向上を図る必要がある。
- ✓ 消費者は接客の良さや知人の存在などの安心感、事業者とのコミュニケーションを重視しているが、このポイントに注力する事業者は減っている。
- ✓ ネットショッピングなどコロナ禍で消費行動が変化しているが、事業者の対応がおくれている。
- ✓ 商店街の利用者が高齢化している。
- ✓ 商店街でのイベント開催の要望は低くないことから、事業の進め方を検討する必要がある。
- ✓ 店や商店街を知らないという回答が多くなっており、情報発信を強化する必要がある。
- ✓ 消費者は特色ある飲食店に関心がある。
- ✓ SNSで情報を入手する消費者が増えており、SNSでの情報発信を強化する必要がある。
- ✓ 商業会組織の高齢化が進んでおり、組織の強化に対する支援が必要。
- ✓ 商業活性化計画の認知度を向上させる必要がある。

(2)商業活性化会議作業部会

- ✓ 個店の魅力向上や個店の力を高める取組が必要。
- ✓ 業種により抱えている問題が異なり、店に応じた対応が必要。
- ✓ レイクウォークは商業の核。
- ✓ 空き店舗対策に取り組んだ結果、周辺に店舗が増加。
- ✓ 各店舗の知名度を上げる取組が必要。
- ✓ 店舗から、特色を打ち出す必要がある。
- ✓ これからの5年間は新型コロナウイルス感染症からの回復が重要。
- ✓ 大手のパワーゲームの土俵に乗らない商い。
- ✓ 買物は商店街に行くという行動スタイルは消滅していく。
- ✓ 大型商業施設や特色ある個店の集客は特筆すべき。

(3)商業活性化会議

- ✓ 仕入れ価格の上昇をいかに販売価格に転嫁していくか。
- ✓ 後継者問題が拡大していないことは、他の地域に比べて良い環境である。
- ✓ 商業者同士や商業会同士の横の連携による取組が必要。
- ✓ 大型小売店舗を中心に、市内商業者が連携したイベントなどを実施する必要。
- ✓ 各商業会が新規店舗を迎え入れる体制整備。

3. 岡谷市の商業将来像

『人が集い、暮らしに彩りと潤いがあふれ、「楽しい」があるまち』

4. 基本戦略・重点施策・基本目標

① 商業活性化に向けた役割分担

- 本計画を円滑に推進するため、関係団体・関係者がそれぞれの役割を認識し、3つの基本戦略を柱とした9つの重点施策を、それぞれが主体性をもって取り組むことが必要です。
- 商業の活性化を図る上で、社会経済情勢にあわせた関係団体や関係者の取組も重要であり、連携をとりながら、これまで以上に創意工夫、魅力創出に努めていくことが求められます。
- 魅力ある個店づくりや多様なニーズにこたえた商品やサービスにより、店舗に出向きお買い物をする楽しさを提供し、「お買い物するなら〇〇店」そして「お買い物するなら岡谷」と感じていただく機運を醸成し、まちなかの活性化を促すことも求められます。

(1) 事業者（個店）の役割

- ① 社会経済情勢の変化に対応して、主体的に経営基盤の強化および経営革新に努める必要があります。
- ② 地域社会の一員として、商業会や商業団体などの活動に参加し、地域社会と協働して地域の発展に取り組むことも個店の魅力につながります。
- ③ 産業界の一員として、他の産業との連携を図り、地域経済の発展に寄与することが求められます。

(2) 商業会（商店街）などの役割【各商業会、商業連合会】

- ① 事業者（個店）単独では対応、改善が困難な共同事業の主たる担い手として、事業活動に取り組むことが求められます。
- ② 地域の魅力と活力づくりに向けて、個店との調和を図りながら積極的な活動が求められます。
- ③ 商業会の意義や役割を見直し、近隣商業会との連携を深めるほか、加入店舗の増などによる組織体制の強化に向けた取組が必要です。

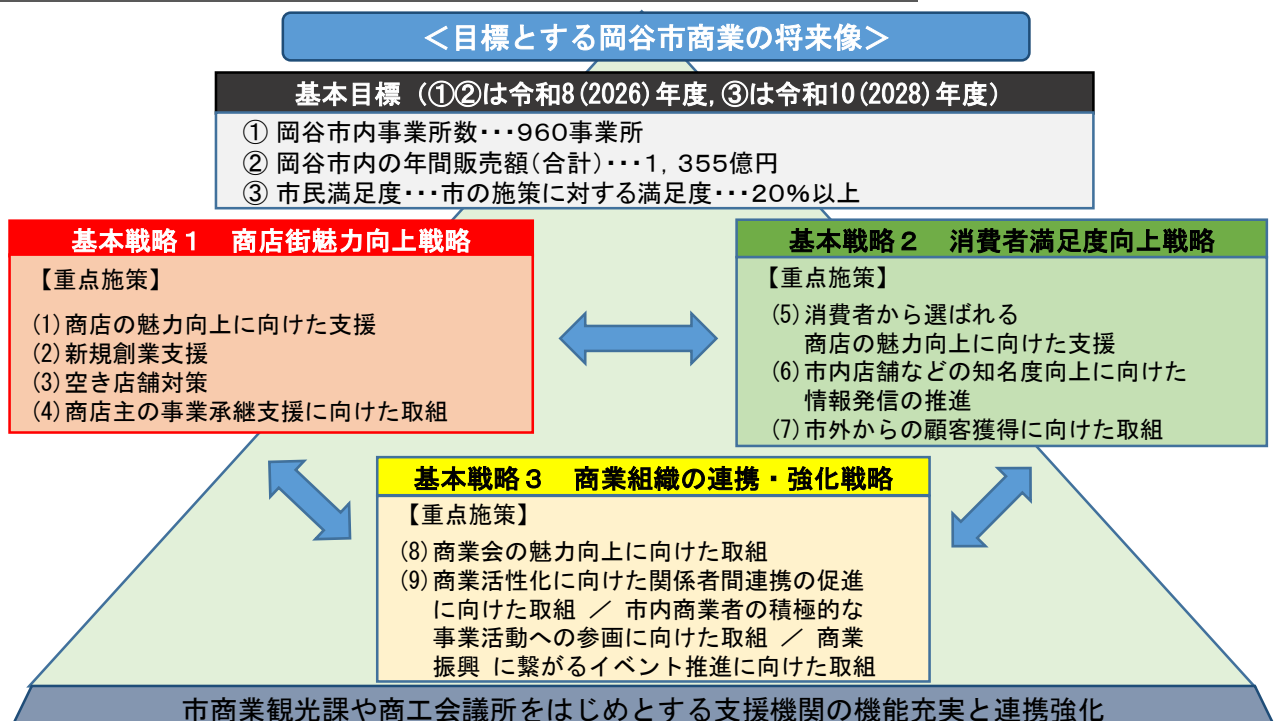
(3) 商業団体の役割【商工会議所】

- ① 産業経済団体の一つとして、商工業の総合的な発展を図りながら、社会一般の福祉増進に資する事業を、市内全域あるいは周辺市町村との連携により取り組むことが求められています。
- ② 専門家集団として、経営診断や経営相談、融資、労務などについて事業者をサポートし、経営面での魅力と活力の向上を推進することが求められます。
- ③ 市内での購買の向上と、愛着があり支持される商業会活動などへの支援が求められます。

(4) 行政の役割

- ① 産業界全体の把握や本計画の進捗状況の把握のほか、各種団体との連携や調整を図ります。
- ② 商業活性化を促進するための支援施策（商業等振興補助金など）および社会経済情勢に応じた事業の展開と適正かつ効果的な運用を図ります。
- ③ 庁内関係課との連携や調整を図り、市全体としての商業活性化に取り組む体制を整えます。
- ④ 国および県との連携により、支援施策など幅広い情報提供と活用を支援します。

② 第2次岡谷市商業活性化計画の体系図（施策体系）



※基本目標における事業所数、年間販売額は、卸売業、小売業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業の合計とする。

③基本方針

実施施策は3つの「基本戦略」と9つの「重点施策」から構成し、将来のあるべき岡谷市商業のあり方の実現に向け、取り組んでまいります。

基本戦略1 商店街魅力向上戦略

重点施策1 重要度：A 優先度：A	【商店の魅力向上に向けた支援】 ➤ 魅力ある個店づくりのため、設備投資の支援施策や相談機能などを充実させ、買物客にとって魅力を感じられる個店、ひいては魅力あるエリア（商店街）の実現をめざします。
重点施策2 重要度：A 優先度：B	【新規創業支援】 ➤ 毎年度一定件数の新規創業者が実現し、来店者、来街者にとって新たな発見、価値を提供し続けられるよう、本市の創業支援や商業環境を発信します。
重点施策3 重要度：A 優先度：A	【空き店舗対策】 ➤ 明るく活気ある安全・安心な、楽しい商店街を実現するため、街全体で空き店舗の利活用が図られている環境をめざします。
重点施策4 重要度：B 優先度：B	【店主の事業承継支援に向けた取組】 ➤ 市内で経営されている方向けに事業承継に向けた啓発活動（セミナー）などを行うほか、次世代経営者育成やネットワーク構築に向けた環境整備について検討します。

基本戦略2 消費者満足度向上戦略

重点施策5 重要度：A 優先度：A	【消費者から選ばれる商店の魅力向上に向けた支援】 ➤ 消費者の選択肢となるよう、個店は、積極的な広告宣伝活動を行うほか、顧客満足度の向上を図り、商店街全体で取組を共有できる環境をめざします。また、商業者が新たなニーズの把握や積極的な店舗展開に繋げることのできる支援制度や相談機能の整備をめざします。
重点施策6 重要度：B 優先度：A	【市内店舗などの知名度向上に向けた情報発信の推進】 ➤ 消費者が容易にアクセスできる媒体により、店舗情報や買物情報の発信をします。また、インターネットやSNSの活用を促進するほか、口コミによる情報発信を促進します。
重点施策7 重要度：B 優先度：B	【市外からの顧客獲得に向けた取組】 ➤ 市外の方に対して、岡谷市内での買物情報を発信するほか、特長ある商業施設の集客力を活かした回遊性を高められる取組を進めます。

基本戦略3 商業組織の連携・強化戦略

重点施策8 重要度：C 優先度：C	【商業会の魅力向上に向けた取組】 ➤ 各商業会の特長を活かした商業会活動の実施と対外的な発信を行います。また、商業会の魅力向上に繋がる店舗の増加をめざすほか、助け合い・協働できる商業会組織をめざします。
重点施策9 重要度：B 優先度：B	【商業活性化に向けた関係者間連携の促進に向けた取組／市内商業者の積極的な事業活動への参画に向けた取組／商業振興に繋がるイベント推進に向けた取組】 ➤ 大型商業施設や商業会同士の連携を深め、来街者の回遊性を高めることで、本市全体があたかもショッピングモールとなり、買物だけでなく楽しいと思える空間となることをめざします。

<重要度>

- A:集中的に資源投入し、課題解決に向けて取り組むもの
- B:マンパワーでの取組を含め、早急に課題解決に向けて取り組むもの
- C:各施設の進捗を踏まえて取り組むもの

<優先度>

- A:喫緊の課題として、最優先に取り組むもの（最優先に成果を求めるべきもの）
- B:早急に改善、解決に向けて取り組むもの
- C:各施設の進捗を踏まえて検討を行うもの

④基本目標

第5次岡谷市総合計画に位置付ける施策の成果指標と整合を図るとともに、商業振興や商店街活性化の取組による市民意識における評価向上をめざして、本計画としての数値目標を設定します。

No.	項目	指標	現状値	目標値	算定方法
1	事業所数	主な業種(卸売業・小売業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業)	960事業所 (令和3年)	960事業所 (令和8年)	経済センサス活動調査
2	年間販売額	主な業種 (同上)	1,355億円 (令和3年)	1,355億円 (令和8年)	経済センサス活動調査
3	市民満足度	市の商業振興施策に対する満足度	16.5% (令和4年度)	20.0% (令和10年度)	岡谷市市民アンケート

5. 計画の推進

①推進体制

商業振興の推進、展開に当たっては、岡谷市商業活性化会議をはじめ岡谷商工会議所や岡谷市商業連合会などの関係団体と継続的な協議、調整に基づき、活性化への取組の醸成を図ります。

②進行管理

将来像や基本方針に基づく施策の実施に当たっては、

- ・市民満足度や統計指標などに基づく目標値の検証
- ・施策の進捗状況の評価

を行い、PDCAサイクルに基づく進行管理を行うとともに、施策の進捗状況を市民に分かりやすく公表するなど、実効性を有する効果的な商業振興のための行政運営を推進します。



第2次岡谷市商業活性化計画 概要版

発行年月：令和6年3月

発行：岡谷市、岡谷商工会議所

※本編をご覧になりたい方は、岡谷市又は岡谷商工会議所のホームページからダウンロードできます。併せて、本計画の策定にあわせ実施した商業環境調査結果もダウンロードできますので、店舗運営の参考にご覧ください。

